

ちよひつごころ

第二二八号 人の道

「父母恩重經」によれば、人として生まれるには宿業を因として、父母を縁とすると、氣を父の胤にうけ形を母の胎に託すと、やがて子が成人すると、長じて人となれば、声を抗げ氣を怒らして父の言葉に順わず。母の言葉に瞋りを含む。既にして婦妻を娶れば、父母に乖き違ふこと恩無き人の如く、兄弟を憎み嫌うこと怨みある者の如し、妻の親族訪い來たれば、堂に昇せて饗応し、室に入れて歆晤す。嗚呼、ア嗟、衆生顛倒して、親しきもは却りて疎み、疎き者は却りて親しむ。」と、このように注意事項が書かれています。何事に於いても差別無く平等に扱うべきものなり。父母の恩、重き事天の極まり無きが如し。の文言時と共に忘却する。情なし。父母として、現には安穩に住し後には善處に生じる為には、仁ありて殺さず、義ありて盜まず、禮ありて姪せず、信ありて欺かず、智ありて酔わざれば、則ち家門の内、親は慈に、子は孝に、夫は正に、婦は貞に、親族和睦し、恩澤を被る」。恩だ義理だと思い取りて我が子を産み育てる訳ではありませんが親の立場と子の立場のギャップに悩む家庭も実際には多いわけです。この「父母恩重經」が作られた時代には既に親子の問題があったということです。何時の時代も親子の立場は変わらず、時代の変遷を経ても又々同じ状態と言えるでしょう。唯、いずれに致しましても感謝の念無くして一家の和合は望めないでしょう。有難うと手の合わさる合掌の姿に正道を進む資格ができると思っています。一喜二憂の娑婆世界です。昔は嫁いで離婚すれば生家の玄関をくぐることは出来なかったようです。現在では子は宝と言いがら宝でなくなり、離婚される夫婦の多いのも現実です。有り難い事に国は母子家庭を支援して補助金を支給してくれます。又、最近のニュースでは躰と称して子供を虐待し殺してしまいました。躰は眞善美愛を持って確立されます。殺された子供は可哀想に文章を持って学校に助けを求めたのですが、有ろう事か学校が文面のコピーを虐待する親に渡したということです。先生の教育はどうなっているのか疑念を抱きます。子供は敢え無く殺されてしまいました。殺すような親（子）を育てた親も居た訳です。怖いことですが現実です。子は親を留め難し、鎧の役目を終えたのでしょうか、色々大変な問題を抱えているとは思いますが、離婚が増えてきたように思えます。どうか皆様時あれば、父母恩重經」をお読みいただきまして、我が身の生命を知ると同時に父母の恩を知ってほしいのです。家庭に長は一人です。確実に父親は長の働きをしなければなりません。家族仲良く和合の中に将来を見据えて生計を立ててほしいと思います。子が腹に宿れば、父母恩重經」を写経し、親としての道を知り、胎児は子としての勤めを知る事になります。当山では妊娠した親に縁あれば写経を勧めています。信仰は暗闇の提灯であるとお話し致しましたが、提灯は持っているだけでは役に立ちません。灯を灯して初めてその効果が味わえるのです。万が一の時に救って頂ける様に、出来るだけ明るい灯の点いた提灯を渡して頂きたいものです。私は願って止みません。親族和睦して明るい社会に。当山の御本尊善光寺如来様の御縁日七草法要は十日 旧暦 一月六日 です。我々の命終に際し、二十五菩薩を、お伴に黄泉の国に旅立つ我々を出向かえて下さいます。敬佛崇祖の行事です。